

2020年9月18日 全6頁

# 新型コロナ拡大の影響を探る 消費データブック（9/18号）

個社データ・業界統計・POS データで足元の消費動向を先取り<sup>1</sup>

経済調査部 エコノミスト 山口 茜  
研究員 和田 恵

## [要約]

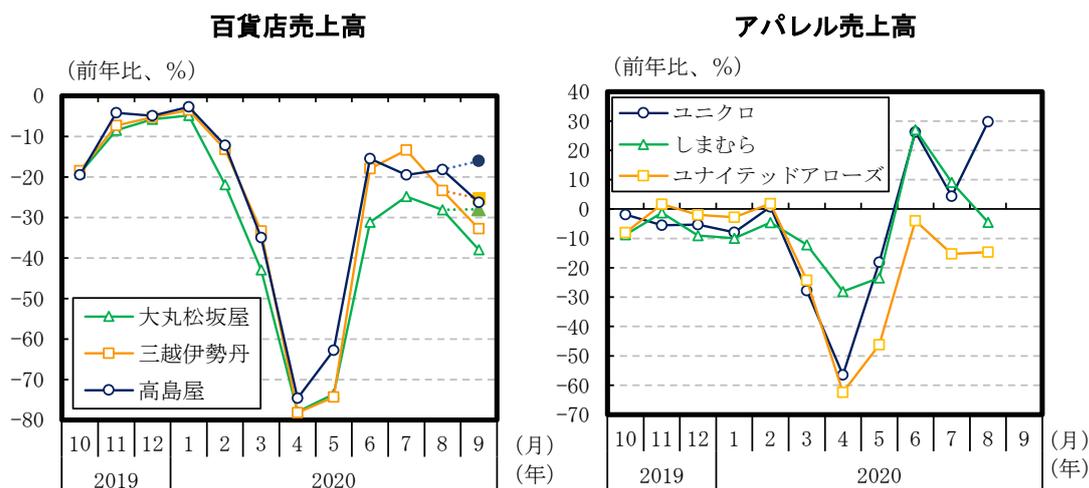
- 9月前半の消費は8月に続き前月から小幅に減少したと見込まれる。財消費が小幅に減少した一方、サービス消費は概ね横ばいだったとみられる。財に関して、9月前半のスーパーやホームセンター、家電量販店の売上は8月から減少し、百貨店は概ね8月並みであった。他方、9月前半のサービス関連のデータはまだ公表されていないが、外食・旅行・娯楽関連消費と連動性の高い小売店・娯楽施設の人出のデータを見ると状況は8月から大きく変化していない。
- 【小売関連】9月前半の大手百貨店の売上減少率は、前年の消費増税前の駆け込み需要の影響を除けば概ね8月並みであった。また、9月前半のスーパーの売上は前月比▲1%程度、ホームセンターは同▲5%程度、家電量販店は同▲10%程度といずれも8月から減少した。家電量販店では、8月は猛暑によりエアコンの売上が好調であったが、9月に入りその動きが一服したことが押し下げに寄与した。

<sup>1</sup> 本稿は、速報性の高い個社データ・業界統計・POS データを基に、足元の消費動向を確認する定期レポートである（2020年4月初めから公表開始）。

## <小売関連>

- ◆【百貨店】大手3社の9月前半の既存店売上高は前年比3~4割減程度。消費増税前の2019年9月の駆け込み需要の影響を除くために前々年比で見ると減少率は概ね8月並み。
- ◆【アパレル】8月既存店売上高の前年比伸び率は、しまむらは7月から低下、ユニクロは概ね7月並み。ユニクロは夏物商品やマスクが好調で7月から上昇。

図表1：百貨店・アパレルの売上高



(注1) 百貨店：既存店ベース。9月は14日までの値。

色付きのマーカ―は前々年比（三越伊勢丹と高島屋の前々年比は大和総研による試算値）。

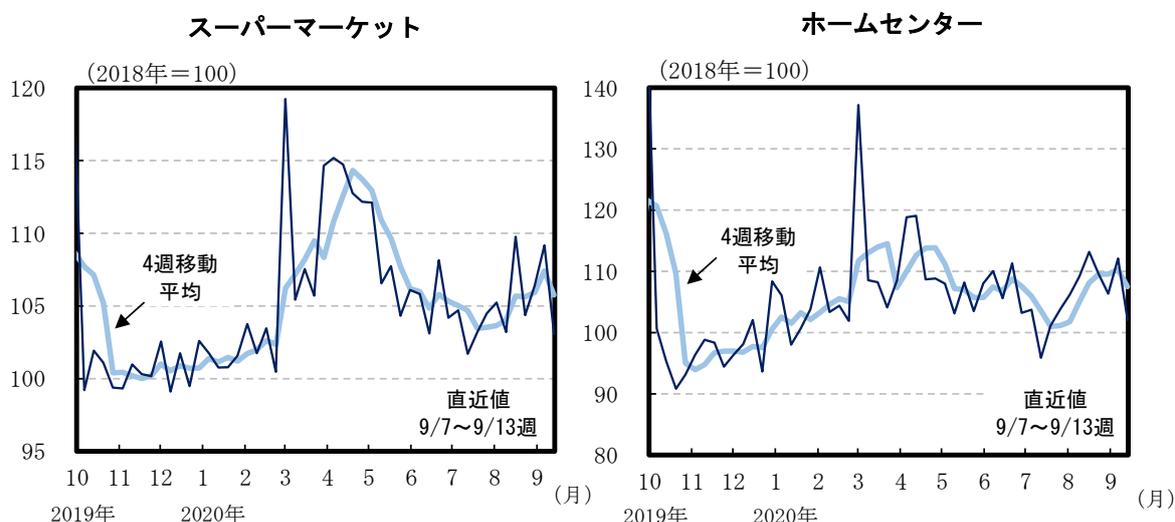
(注2) アパレル：既存店ベース。ユニクロとユニクロはネット通販を含む数値。

しまむらの各月の数値は前月21日から当月20日の集計値。

(出所) 各社資料より大和総研作成

- ◆【スーパー】9月前半の売上は前月比▲1%程度（大和総研による季節調整値）。主力の食品売上も小幅に減少（同▲1%程度）。
- ◆【ホームセンター】9月前半の売上は前月比▲5%程度（大和総研による季節調整値）。雑貨やヘルスケアの売上が減少。

図表2：スーパーマーケット・ホームセンターの売上高

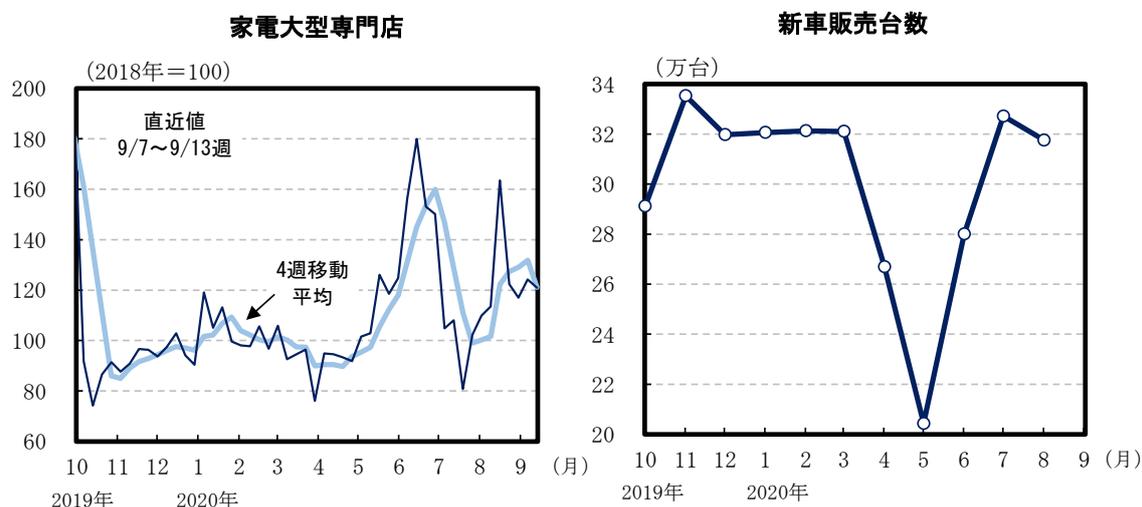


(注) METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省より大和総研作成

- ◆【家電】9月前半の大手家電量販店の売上は前月比▲10%程度（大和総研による季節調整値）。8月に猛暑効果で好調であったエアコンの売上の一服が押し下げに寄与。
- ◆【自動車】8月の新車販売台数は7月から1.0万台減少（大和総研による季節調整値）。

図表3：家電・自動車の売上高



(注1) 家電大型専門店：METI POS小売販売額指標の週次データ。消費税を除くベース。大和総研による季節調整値。

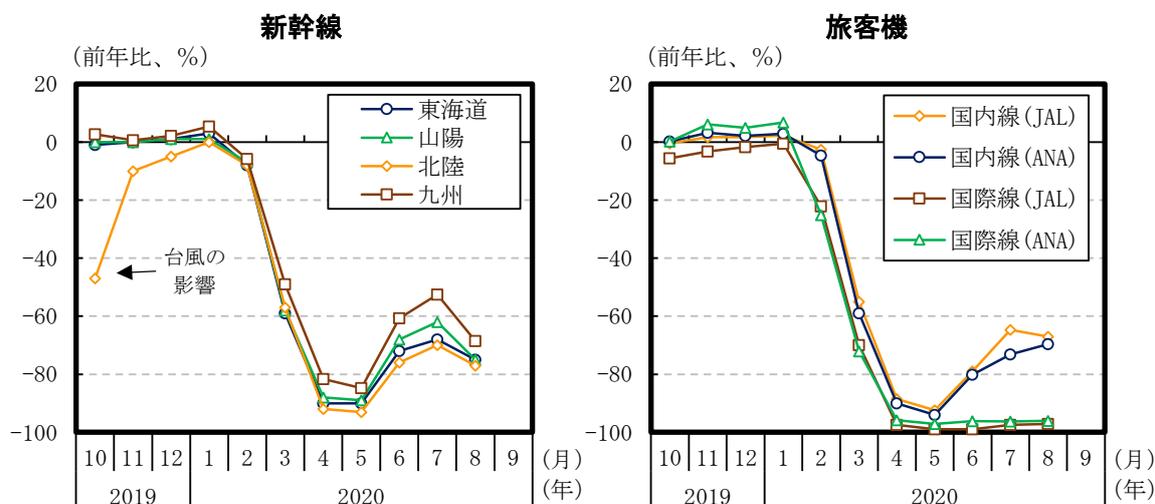
(注2) 新車販売台数：月次データ。大和総研による季節調整値。

(出所) 経済産業省、日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会統計より大和総研作成

### <サービス関連>

- ◆【新幹線】8月の輸送量は前年比7~8割減程度と7月（同5~7割減程度）からマイナス幅が拡大。
- ◆【旅客機】ANA、JAL両グループの8月の輸送量は、国内線で前年比7割減程度、国際線で同95%減程度。9月は国内線の約4~5割、国際線の約9割が運休予定。

図表4：新幹線・旅客機の利用状況

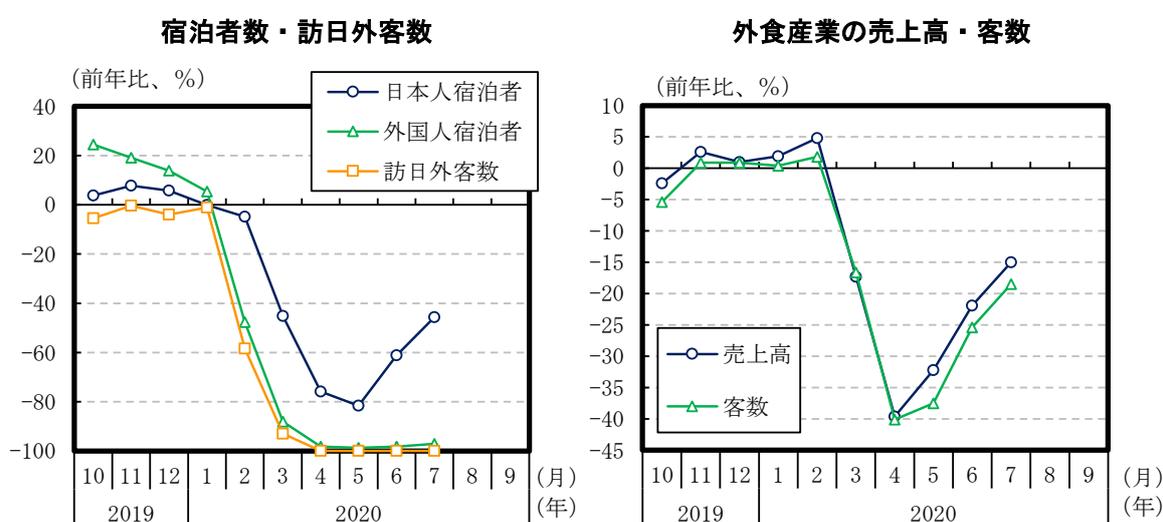


(注) JAL・ANAのデータはグループ会社を含む数値。

(出所) JR東海、JR西日本、JR九州、JAL、ANA資料より大和総研作成

- ◆【宿泊】7月の外国人宿泊者数（宿泊日数ベース）は、6月と同様にほぼゼロで推移。引き続き入国制限を行っていることから、8月も同様の結果を見込む。  
7月の日本人宿泊者数は前年比5割減程度と6月（同6割減程度）から改善。8月は7月と同程度と予想。新幹線や旅客機の利用状況を踏まえると、遠距離の旅行は減少を見込む。一方、近距離の旅行はGo Toキャンペーン等により増加を予想。
- ◆【外食】7月上伸び率は前年比15%減程度と6月（同20%減程度）からマイナス幅が縮小。立地・業態間で回復度合いのばらつきが大きく、繁華街に立地する店舗や酒を提供する業態は他と比べて回復が鈍い。JCB消費NOW等のデータに基づくと、8月は7月から小幅な悪化を見込む。

図表5：宿泊者数・訪日外客数／外食産業の売上高・客数

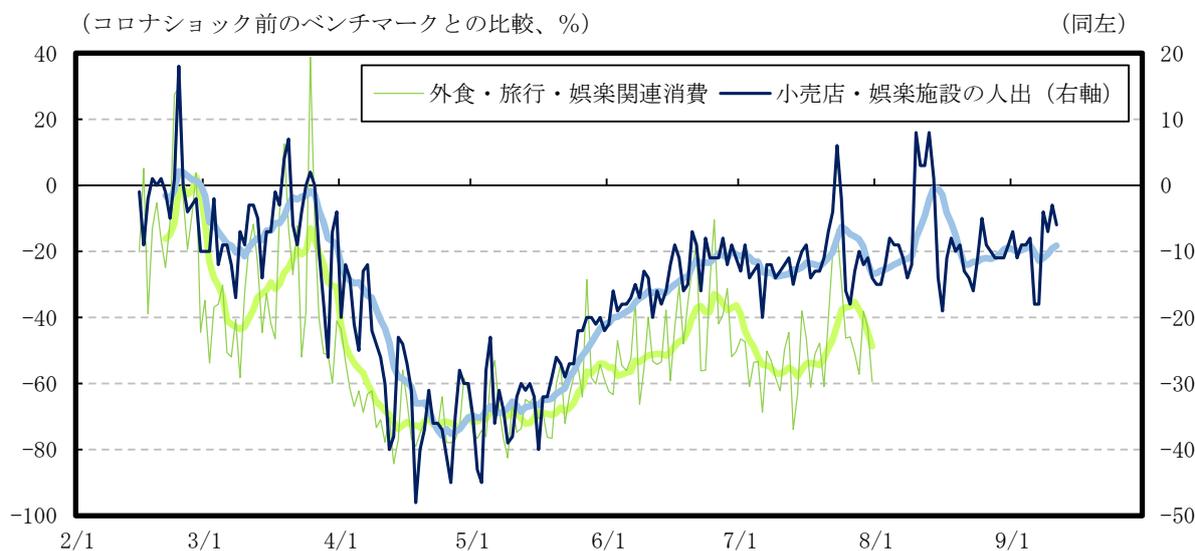


(注) 宿泊者は宿泊日数ベース。

(出所) 観光庁、日本政府観光局（JNTO）、一般社団法人日本フードサービス協会統計より大和総研作成

<参考：Google 社の位置情報データ>

図表 6-1：小売店・娯楽施設の人出と外食・旅行・娯楽関連消費

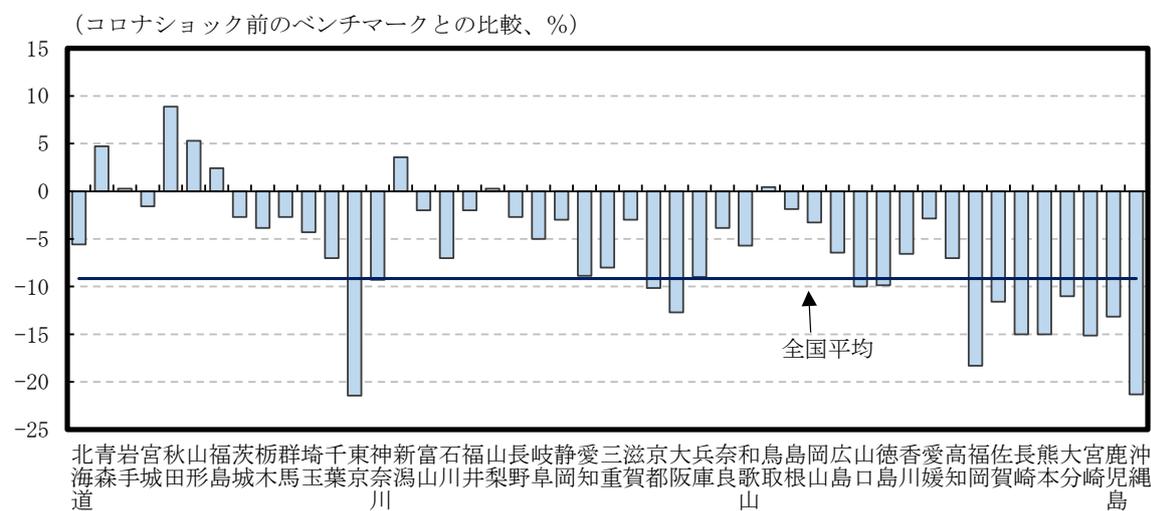


(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。太線は7日移動平均。

外食・旅行・娯楽関連消費は「外食」「交通」「教養娯楽サービス」の合計値。

(出所) 総務省統計、Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

図表 6-2：小売店・娯楽施設の人出 (9/5～9/11 平均、都道府県別)



(注) ベンチマークは2020年1月3日から2月6日の曜日別中央値。

(出所) Google“COVID-19 Community Mobility Reports”より大和総研作成

<参考：第3次産業活動指数>

図表7：第3次産業活動指数

